



# 赤塚バプテスト教会 自然観察会記録



2014年9月～2020年1月

175-0092 東京都板橋区赤塚 1-18-7  
Tel. 03-3930-3886  
赤塚バプテスト教会  
牧師 石堂雅彦

# 赤塚バプテスト教会 自然観察会記録

こちらの自然観察会記録は、1回目から4回目は赤塚教会 旧ホームページより、以降は赤塚教会 Facebook からの抜粋となります。

インターネットは [赤塚教会自然観察会記録](#) と入力して検索してください。PDF で開きます。

赤塚教会では、オープンチャーチの一環として、長く高校生物の先生をされていた方を中心に、自然観察会が行われ、季節の草木や花々、動植物に親しみました。近隣の自然に目を向けるとうれしい驚きがありました。【星 文也】



**講師 岩田浩司氏プロフィール**；都立北園高校（生物部）を卒業後、千葉大学園芸学部に入学、応用昆虫学を専攻。昭和 35 年より、都立高校の教諭となり、主に生物・化学の授業を担当しました。

都立小石川高校で 16 年間勤務し定年を迎えた後も、母校北園高校で嘱託に迎えられ、計 43 年務めました。その後も高校生の教育に携わり、私立高校で 9 年教えて、合計 52 年の教員生活をしました。

退職後は、「板橋荒川市民会議」に入ると共に、「いたばし水辺を楽しむ会」のグループで、荒川河川敷でゴミ拾いや、子どもたちにカニの生態を楽しんでもらったりしています。また、板橋区のみどり公園課の「緑の基本法」の設定や実施に、ワークショップに参加し、板橋の緑の保存につとめています。さらに、和光市を流れる白子川の水質の保全と魚類や昆虫などの自然保護に時間を割いています。十分に忙しい日々ですが、神様の創られた生き物たちの素晴らしい姿に癒され、励まされています。



1回目 2014. 9. 21 (日) 参加者：10名

◆オリエンテーション： 聖句：マタイ6：28 「イエス様もネイチャーウォッチングをしていた。」

聖句の中に、注意して見なさい、という言葉がある。注意をする時どのようにするか。まず、人間に与えられている五感（視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚）を使ってみよう。さらに、時には第六感も使えるようになると、より良く自然を味わうことが出来るだろう。見る

にしても、見るだけではなく、じっと見る、見つめる、見返してみるなど工夫して見てみよう。得られる自然の姿が深まり、広がるはずであり、印象としていつまでも残る。

◆コース・観察項目 教会を出て、右折。デイ・サービスの角を曲がる。その付近で、メヒシバ・オシシバ・カヤツリグサ・ハナゾノツクバネウツギの観察。次に、皇帝ダリアを説明(草丈約2m。しかし、1年草)。少し先に行き、マンションの右角で、コミカンソウの観察をした。複葉の裏に極小の果実を発見。葉の裏に小さな橙色の果実がびっしり並んでついているのを見て皆さんびっくりし、可愛さに感動する。垣根のネズミモチの葉脈をすかして観察し、葉脈が黄色く透けて見えて、唐ネズミモチを知る。根本のツククサを見る、匍匐して横に広がる繁殖法を学ぶ。空色の花色が美しい。

マンションの垣根沿いに見ていくと、フユサンゴが見つかる(ナス科の植物、冬に真っ赤な果実を付ける)。エノキの幼樹の葉とトウ(唐)ネズミモチの葉の違いはどこかを問う。一番の違いは葉脈の左右の面積の違い。また、葉脈が主脈に対して互生か対生かの違い。クチナシでは食害虫のオオスカシバの話。教会にあるクチナシにこの昆虫の幼虫がいたという。お尻に角のような突起がある幼虫である。親になると、蛾では珍しい、チョウのような羽が透明な美しい親の蛾となる。河東家の駐車場を曲がる。さらに、教会方面に曲がる。途中で草原があり、そこで草原性のカゼクサ、ミチヤナギ、イノコズチ、ナズナ、イヌタデ、ウラジロハハコグサ、カニクサに出会う。しかし、イネ科の植物を説明し損なう。カエデの木を塀越しに見る。プロペラ状の種子を説明。アスファルトに落ちた種はどうなるのか? 植物の発生には幾多の障害が待っている。光、水、栄養などなどだ。スミシ、スベリヒユ(この植物は葉が厚く乾燥に強く、横に成長する)も見つかった。



## 2回目 2014. 11. 16 (日) 参加者：8名

コースは途中まで前回と同じだったが、今回は大宮バイパスに出て、水島さんの家に向かう交差点を赤塚一中側に渡り、徳親公園に向かう。まず、教会内にある、ゼニゴケの観察(葉状体、仮根の説明)から。カタバミ、メヒシバ、オシシバは絶対に枯れない? 再び、チチコグサ、フユサンゴ。イノコズチの繁殖法、他の動物、人などに運ばれる方法。乾燥に強いスベリヒユ。チガヤやロゼット葉の草の根を説明。実際に根を掘ってみる。皆さん、細くて沢山の根と太くて長い根に驚く。ギシギシ、スイバ、カラスノエンドウは食用になる。カラスノエンドウの葉は羽状複葉で、先端は巻髭になっている。ハルジオン、ヒメジオン、リュウキュウアサガオ、ツワブキ(黄色い花は美味しい)も食用となる。ツタバウンナンは園芸種として使われ、脱出種となる。その他見られたものは、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、アズマネザサ、アキノノゲシ、カタバミ、サントス(小さなアジサイのような虹色の花が可愛らしい)。コモチマンネングサはコケのような草。樹木が赤塚一中の近くに一列に植えられている、サンゴジュだ。公園に戻ってくる。サクラが植えられていた。サクラの落ち葉とハナミズキの葉を比較する。ある一つの特徴でサクラの葉を特定できるが、それは何か。葉の付け根に一對の「蜜腺」がサクラにはある。それに、アリが引き寄せられる。サクラがアリに蜜を与え、引き換えにアリにケムシなどを防いでもらう。これを相利共生という。最後に、細田学園の用務員さんにももらった「ガガイモ」の種子の入った鞘を見てもらう。綿毛の付いた種子は、真っ白に輝き美しい。この植物は、生育場所も形態も大変ヘクソカズラに似ている。ヘクソカズラはある人がその名前を気の毒に思い「サオトメソウ」と名付けたそうである。公園を出て、教会に向かう道で、ふと南側の家並みを見ると、1回

目に学んだ皇帝ダリヤの花が塀の上に高く咲いているのが見えた。気付かず歩いていた皆さんの足を止め、コウテイダリヤの花が見えますよ、と叫ぶ。解散後に、夕礼拝が終わってから、北島先生はそのお宅まで行かれて、栽培のことなどを伺い、その大きな花を頂いたとのこと。北島先生の敢闘精神にびっくりした。また、時を待たずして赤塚教会の女性会の機関誌「Zion」（シオン）に載ったその2回にわたって書かれた原稿の最後にあった、”詩編117編2節の聖句 “主の慈しみはとこしえに わたしたちを越えて力強い。ハレルヤ。” という言葉に、私は感動させられた。

### 3回目 2015. 1. 18 参加者：13名



テーマは「生き物たちの冬の過ごし方」。最初の2回はテーマがなかった。配布物：記録のために各自にバインダーを配る。拡大鏡と移植ごて。今日は、佐々木順子さんの年賀状“冬の野原も意外とカラフル”を配ると、皆さんそこに描かれた野の草のかわいさとふんわりした色彩に心を和ませる。その後、彼女の作品「のはら新聞」を配る。野草を見る目が変わるかも知れない。

コース。教会の中で拡大鏡、バンを配る。夢二、富弘、ちひろ美術館で見た詩などを披露し、自然への完成の大切さをアピール。セイジ、クコの観察。今日は門を出て、左に曲がる。印刷屋さんの手前に幅7.8mの空き地がある。先週の下見でここで今回のテーマである「生物たちの冬の過ごし方」について学べると判断。空き地を見渡して、この空き地の中に植物の越冬手段が幾つかあるので3つ程探してくださいと云う。3つの方法は、種子、根茎、ロゼットをつくる。エノコログサ、キク科の草などの種子の数を数えてもらう。ここで、榨法の説明をしたが、被度についてはあまり触れられずに、説明不足。この場所を一ヶ月おきに観察すると説明、やや不徹底。ツタの壁への貼りつき方、オオイヌノフグリの開花（極小でも）、アメリカフウロウの紅葉などの説明（佐々木順子さんの冬の草の紅葉の年賀状：冬の野原は意外とカラフル）。

徳親公園に移動。入口に植えられているユズリハの葉脈の紅桃色の美しさを鑑賞。中に入って、皆さんに園内のサクラの木を見上げてもらい、ミノムシの存在を探してみる。発見なし。小泉さんが、昔、ミノムシを裸にして、折り紙や毛糸で蓑をつくらせるお話をしてくれた。冬芽を取って芽鱗を一枚ずつはがして、中の春芽を出してみる。最後に緑の芽が出てきたのをみんなで観察。これが春になって新芽として開くことになるのだ。少し上の方に花芽になる芽が見られた。葉芽と異なり、うっすらとピンク色が感じられる色合いであった。そのあと、1m程ある幹に各自手を当ててもらい、サクラの幹のぬくもりを感じて頂く。

近くに生えている木の名前を、北島先生に聞かれ、「クスノキ」と答える。そこで、クスノキとサクラの幹の違いを比較して貰う。クスノキの幹には縦にしわが見られ、サクラには横に走る樹皮があり（東北にはこのサクラの皮目の美しさをお茶の缶に貼り付ける工芸がある、と北島先生）違いがあることが分かる。ではこの皮目は植物にとってどんな役割をしているか。上からの雨水を流すなどの答え。呼吸のためという答えはなかった。先日の下見の時に会いした95歳とか言われていたおばあさんにまた出会う。雨がなければいつもこの公園に来ますよと言われ、皆さん驚き、私もこの間と同様に感動した。階段を下りて、ケヤキの太い幹を紹介する。先走って教えて失敗したが、ケヤキの太い幹の下には、数センチ四方の小さな剥がれおちた樹皮が散らばっている。子供たちの自然の遊びに、これをジグソーパズルのように幹に当てはめてみるというものがある。何人かの方が試みていたが、北島先生が、一つきっちり当てはまる木の皮を見つかった。拍手！ ついでに、この木の皮の下に、時として昆虫などが冬ごもりしていることを伝えしたが、直ぐに山口さんが、幹から皮を剥がして、茶色のクモの成体を見つけた。ここで質問。「冬に昆虫などが樹木や土手など

に越冬する時は、南側にするか北側にするか？」皆さん、南側との答えが多かった。しかし、答えは、北側。理由は、昆虫はほ乳類と異なり、体温が周囲の環境に支配され、南側では、寒暖の差が大きいため、体温保持が不安定になるため南側は越冬には適さないため。

階段を下りて、公園を出て、正面の道沿いの草むらにあったカラスノエンドウの「蔓」が、葉の先端にあることを観察。ここには、ナガミシナゲシ小さな芽が沢山発生していた。この辺一帯が凄い群落になる兆しを見る。角に、ヒイラギの木が葉の形が違うことを示してしまった。こういうことを避けないと、皆さんの観察力を増やすことは出来ない。3時になって、残念にも終了したが、今日も1回目と同じ距離だったろうか。しかし、さらに様々なことに気付かされて、収穫はあったと思う。



#### 4回目 特別春の観察会「春の妖精（エフェメラル）たちに出会う会」

2015. 3. 28 参加者：7名

3/22日が教会総会のため実施不能ということであったが、早春のこの絶好の機会を逃したくなかったので、特別企画として実施の運びとなった。

最初は、赤塚公園のニリンソウの観察からと考えていたが、最後に教会の近くに来たかったので、まず、練馬区の清水山公園のニリンソウの観察をすることにした。ライフの駐車場に車を止めて、公園まで歩くことにした。3/25日に下見に来た時は、風があり寒い日であったので、カタクリの花色も悪く、花弁の反りも大変弱い状態であったが、公園の中に入ってみると花の状態は、昨日からの気温の上昇で大いに回復していた。

公園に入る手前に、コブシの木があったので、まず、その花の観察をした。コブシは良くハクモクレンと区別が出来ないといわれている。しかし、コブシの花は、ハクモクレンよりもやや小振りの大きさであり、その花の直ぐ下に小さめの緑の葉が付いているので、一度分かれば誰にでも区別することが出来る。事実、午後から移動した、赤塚公園では、大きなコブシの木の下で、皆さんそれがコブシの木であることを言い当てることが出来たのである。百聞は一見に如かず、である。



ヒメオドリコソウ(外来種)



オドリコソウ(在来種)



オオイヌノフグリ  
(外来種)



イヌノフグリ  
(在来種)



この清水山公園になぜ多くのカタクリの自生が見られるかという  
と、①その自生地が緩傾斜になっていること、②傾斜地の上部から下  
に向かって、地下水が流れていること、③自生地はイヌシデ、コナラ  
などを主体とした落葉広葉樹が生育し、カタクリが咲くこの時期は、  
太陽光が芽生えの間から落ちる木洩れ日により、理想的な光量を受容  
していること、④練馬区が、この自生地のために管理人を配置し、生  
育状況を見守っていつこと、⑤そのようなことへの理解の上に訪れる  
人々も自生地内には入らないなどのマナーを守っていること、などが  
挙げられる。

カタクリの花は、地面に向かって蕾が下がり、気温が上昇するに従  
い花卉が上に向かって反り返って開花していく。ということもあって、カタクリの花の観賞  
をするには、ある秘密兵器(?)が必要になる。それが鏡である。皆さんに、兼ねて用意の  
鏡をお渡しして、それを花の下に持っていき、鏡を見ると、カタクリの花弁の中央近くに濃  
い紫色の模様が見えてきて、花が一段ときれいに見えるのである。

皆さんと斜面を下りて、鳥楽の池のそばに出る。池の下側に堰が  
出来ていて、湧水が溜まるようになっていた。すでに小さなアメン  
ボが水面に浮かんでいる。シロボウエンゴグサやイチヤクソウなど  
が散見出来た。カタクリは葉が2枚にならないと花を開かない。開  
花まで7~8年を要するので、花はことのほか貴重に見える。しか  
し、東北地方では、群落して開花している花を食用にしているとの  
こと。私の感覚では、何かもったいないように感じるが、地方に  
よってはそれが春の習わしとなっているようである。今年は、残念  
ながら白花の株には出会わなかった。(昼食はライフの真向かいの  
「三越屋」というお好み屋さんに行き、皆さんでゆっくり楽しく頂  
くことが出来た。広島焼に焼きそばを食べ、デザートにアイスク  
リームを味わい、何と約800円ということで、皆さんびっくり。)



その後、いよいよ「板橋区の花」、ニリンソウを見に赤塚公園に向かった。華屋与平の駐  
車場に車を止め公園に入る。ニリンソウの前に皆さんに見せたいものがあり、向ったのは、  
オドリコソウの自生地である。どうやら開花していてその白い花を見てもらうことが出来  
た。オオイヌノフグリと共にそれより小型のフラバサソウも紹介できた。ムラサキケマン、  
シロボウエンゴグサ、セントソウ、コクサギ、ウバユリ(枯)アケビ、などは見られたが、  
残念ながらヤマブキソウの花は見られなかった。3/25日の下見の時はニリンソウの開花  
は、やや早く大門近くにちらほらだったが、今日はほぼ一面の開花状態の大群落が見られ  
て、皆さんに喜んでもらうことが出来嬉しかった。

大門のあたりに戻っていくと、道路際のところに一本の樹木があり、折から白い花が沢山  
咲いていた。「この木は何という木だか覚えてますか。」の問いに、皆さんその木の周り  
に集まり、花の咲いている枝先に目を留められた。「カタクリ公園の入口にあったのと似て  
いるわね。花の下に、緑色の小さな葉っぱがあるわ。」、「だから、これは、コブシの木  
ね。」、ということになり学習は見事成功して、本当に良かったと思った。



2015年5月22日

5月16日午前10時から自然観察会が行われました。  
直前まで雨が降っていたせいか、ナメクジが元気いっぱい、教会の裏庭にはいろいろな植物が！

教会の敷地内だけで約2時間、たっぷり観察しました。

次回が楽しみです。ぜひ一緒に。

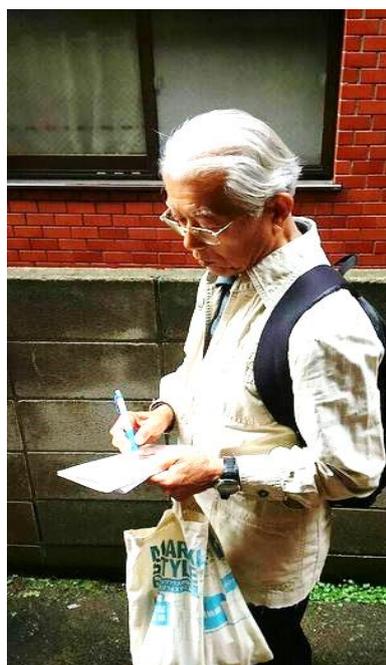
写真①自然観察会の先生

②オオタビラコの花

③オオタビラコの葉にいたナメクジ

④教会裏のフキ

⑤ヤブジラミの花と実（ひつつき虫！）



2015年7月5日

★自然観察会お知らせ★

7月19日(日) 午後1時半より

＊＊テーマ「夏を過ごす草たちの生活」＊＊

日曜午後のひととき、長く高校で生物を教えておられた、  
当教会員の岩田浩司先生のご指導のもと身近な動植物の観察  
をします

先生は引出しが多いので、お話しも楽しいですよ

お花（アガパンサス・ばらなど）をみる まなざしが、とっ  
てもやさしいですね♪♪



2015年9月15日

9月20日日曜日 赤塚公園にて行います

午後1時半に赤塚教会玄関前に集合!! 車に分乗して移動いたします

教会へいらした事のない方も歓迎です

ご参加出来る方は教会までご連絡ください

2015年11月14日 ・

11月の自然観察会のご案内

日時：11月29日(日) 午後1時半～3時

講師：岩田浩司兄

テーマ：「収穫の秋と冬への備えを実感する」

1回目の岩田氏の自然観察会記録（教会ホームページ）がステキです♪♪

★イエス様もネイチャーウォッチングをしていた★ マタイ6：28

「聖句の中に、注意して見なさい、という言葉がある。注意をする時どのようになるか。まず、人間に与えられている五感（視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚）を使ってみよう。さらに、時には第六感も使えるようになると、より良く自然を味わうことが出来るだろう。

見るにしても、見るだけではなく、じっくり見る、見つめる、見返してみるなど工夫して見てみよう。得られる自然の姿が深まり、広がるはずであり、印象としていつまでも残る。」

2016年3月30日 ・

赤塚教会 自然観察会のご案内

4月3日(日) 13:30 教会集合

枯れ葉の中からみどりの姿を現わした、春の草の姿を求めて！！

でかけてみましょう♪♪

白い花、黄色の花、ピンクの花もある春の植物たち

ほかの色の花も探してみよう！

道端の隙間にも植物が?! どうしてこんなところに??

どんな発見があるか楽しみですね



2016年4月11日 ・

4月3日 第1日曜日 礼拝後に自然観察会が行われました。

こんな身近に、こんなに美しい神さまの御手のわざがあります。

自然観察会は神さまの御臨在を感じる会です。



2016年7月27日

◆◆赤塚教会自然観察会のご案内◆◆

★7月31日 日曜日 礼拝後 午後1時半教会集合

★テーマ：「春の植物たちは何を残し、夏の植物たちは何をしようとしているか」

★講師：岩田浩司兄

都立赤塚公園へ車に分乗して向かいます。ニリンソウに覆われていた、赤塚公園も夏を迎えて、植物たちの姿は、大きく変わっているので、どのような変化があるか、それを見られるのが楽しみです。

身近な自然に触れ親しむチャンスです。  
ぜひご参加ください。



2016年10月23日

★自然観察会のご案内♪♪

★講師：岩田浩司兄

今回は赤塚植物園 予定とのこと！

とてもよいところ♪とうかがっています (\*^\_^\*)  
ス・テ・キ！な秋が見つかるといいですね(^\_^)☆  
※当日の都合により行き先変更の場合があります  
ご了承ください。

★自然観察会 10月30日(日)★

一度は赤塚教会の皆さんと行って見たかった赤塚植物園。

チューリップの花と似ているといわれる花を初夏につけるユリノキのある入口を入ると、ホトトギス、各種のキク、ハギ。

冬になって、茎の下に霜柱状の氷をつける「シモバシラ」等々、野園では皆さん多くの花々に心奪われる一時を過ごしました。 岩田浩司



2017年1月31日

1月29日(日)赤塚教会自然観察会

テーマ「寒さの中で春の姿を探そう」

今は、冬の真っ最中、そんな時に春の姿を探せるでしょうか。そのような思いで教会の周辺を歩きました。

出発してすぐに、ホトケノザの勢いよく育っている姿を見付けました。しばらく行ったとこ

ろにピンク色の可愛らしい花も咲いていました。野の草たちの多くは、冬の間、ロゼットという平たい形で地面に生えて、なるべく太陽の光を受けようとしているのが見られて感心しました。19名もの参加があり、初めて3人の子供たちも参加しみんな大活躍でした。教会員以外の方の参加もあって、短い時間でしたが、本当に楽しい会となり、感謝でした。次はウィークデイとなるかもしれませんが、カタクリとニリンソウの花を見学しに行きたいと思っています。岩田浩司



2017年2月15日 ・

◆◆赤塚教会 自然観察会14回<2017.1.29>◆◆  
教会周辺コース「寒さの中で、春の姿を探そう」  
参加者 19名 講師 岩田浩司

2017年4月17日 ・

赤塚教会自然観察会(4/3)

今年の桜の開花が遅かったのと同じように、カタクリの開花もゆっくり...。5割ぐらいの開花でしたが、やっと芽吹き始めた落葉樹の足下に見渡す限りといえるように、薄いピンクの小さな花々が続いていました。

カタクリは はかない命、春の終わりに跡形もなく消えてしまいます。だから、可愛く、美しい! 昔、片栗粉を人々に提供してくれた、可憐な 春の妖精 に出会えました!

日程上、参加者が少なくもっと沢山のの方々に見てほしかったとつくづく思いました。



2017年7月1日

5月の自然観察会は、15名の参加があり、教会の周辺を散歩しながら観察しました。花の季節は、という課題に、20種類は500mくらいの間に見つけれられました。アゲハ蝶の幼虫や芋虫の幼虫、アブラムシを食べるテントウムシの幼生も見れました。



2017年7月13日

◎子ども向け自然観察会はじめます！◎

暑い日が続いていますね！

暑くて外になんて出たくなーい！でも子どもたちは外遊びしたーい！

なんて皆さまに朗報です！！

子どものための身近な自然をじっくり観察して楽しもう～！

という「のののはな会」開催決定です！！

参加費無料、申し込みもいりません。赤塚教会のお庭を虫かごや小さな網を持って探検に出かけてみませんか？

（虫かご、網、虫眼鏡、シャベル等、当教会でご用意しております。手ぶらでお越しください。）

小さなお子さまは保護者同伴でのご参加をお願いします。小学生以上は各ご家庭の判断のもとにご参加いただけます。

詳細は後日アップいたします。お楽しみに♪

※ママトーク会を同時開催！！パパとお子さまは「のののはな会」ママはここでしか出来ない話をしませんか??)

子ども  
のののはな会

パパと一緒に外遊びしたいな♪  
どなたでもご参加OK！  
場所:赤塚バプテスト教会  
※汚れても良い動きやすい服装でお越しください。季節により帽子や水筒、虫除け等をご持参ください。詳細は山本穂穂まで  
※ママトーク会も同時開催！！  
お子さまをババに託せてここでしか話せないのんびり、寛容な！ママトークしませんか？

☆開催日程☆  
7/30・10/29・3/18 (2018)  
時間：13時15分～14時30分  
〔白紙の変更は随時HPでお知らせいたします〕  
講師：赤塚教会 理科の先生を40年以上務める、子どもの目線で小さな虫や植物を探る野原の名人、  
赤塚教会員ボランティアスタッフが2～3名長年スタッフとして関わっています。ボランティアは員外に加入してありますが、クガヤや瓢箪などの害虫は員外に加入していただく必要は、小さなお子さまの安全は保護者同伴でのご参加をお願いします。

2017年7月27日

7月16日の自然観察会

今回は、猛暑の中での観察会になりました。参加者が炎天下での観察会では不意の事故が起きないとも限らないので、観察の場所を2カ所にしばって実施することにしました。教会の左側の崖の下のくさはらは、以外にも皆さんには知られていないところだったので新鮮な気持ちで植物たちに接することができました。少し離れたもう1カ所の所は月見草やフウセ

ンカズラなどがあり、教会に戻ってからのスケッチの材料を採取することが出来てよかった  
 と思いました。次回も多くの方が参加されるように願っています。【岩田浩司】 ♻️♻️♻️



2017年9月11日

♻️自然観察会のご案内 ♻️

- ◆9月17日(日) 午後1時半 赤塚教会集合 🍎
- ◆テーマ:「植物の葉について学ぶ」 🌿
- ◆講師: 岩田浩司氏

「植物にとって葉っぱとは、何なのでしょう?」  
 今回は、こんなことを皆さんと、実物を見ながら考えたり学んでいきましょう。“たかが葉っぱ”といえない何かがあるといいですね、それには何といっても参加することです! ♻️♻️♻️



聖句の中に、注意して見なさい、という言葉がある。注意をする癖心にするか。まず、人間に与えられている五感(視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)を使ってみよう。さらに、時には第六感も使えるようになる。より深く自然を味わうことが出来るだろう。見るにしても、見るだけではなく、しっかりと見る。鼻をつめる、閉じてみるなど工夫して見てみよう。得られる自然の姿が深まり、広がりはずであり、印象としていつまでも残る。

赤塚教会 自然観察会記録

赤塚教会でもたれている 自然観察会  
 岩田浩司氏による記録です



なぜ、夜帳のことで思い悩むのか、野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、結ばもしない。  
 マタイによる福音書6章 28節





2018年2月8日

🌿”自然観察会に参加してみましよう!!” ♻️♻️

1羽のスズメの話は聖書に出てくるお話で、こんな小さなスズメでも神様は愛の目を持ってその生活を支えています。しかし、現実のスズメは、それだけでは生きて行かれません。それでは、現実のスズメはどのように生きているのでしょうか。

さて、今までの自然観察会では、春はミメオドリコソウやカラスノエンドウ、夏はヒルガオやマツヨイグサなどを教会の周辺を歩きながら見つけて名前などを覚えていきましたが、では、それらの植物たちはどの様に生きていたのでしょうか、今回はそのようなことを自然界に思

いを馳せながら考え、お話ししていきたいと思えます。初めてのレクチャーになります。👉📖  
どうぞ、2月18日(日)、午後1時30分に赤塚教会の1階玄関前にお集まりください。お話はその1階で行います。 岩田浩司



## 2018年6月19日

6月17日の第3日曜日に「子どもののはな会」を開催しました！

寒暖差が大きく風邪などひいてしまった親子も多かったのですが、3組の親子で近くの公園に虫カゴや虫めがねをもって遊びに行きました！

あまり虫のいる季節ではありませんが、子どもたちは、木の根っこに巣を作るアリやダンゴムシなどを興味津々に観察していましたよ。

教会に戻り、講師の先生から足の数クイズが出題され、子どもに負けず劣らず大人も大盛り上がり時間を過ごしました。

もちろん会の最後は虫さんたちとお別れの時間。みんな名残惜しそうに（半ベそかきながら…）大地に帰していました。これもまた、大きな学びですね。

次回もお楽しみに！！

### ◎子どものはな会◎

- \*日曜日の13時半から不定期開催
- \*親子で自然観察しながら遊びます
- \*一緒に遊んでくれる大人大歓迎
- \*虫カゴや虫めがねなどの用意あり



## 2018年9月2日

🌿薬草探しの自然観察会 9月16日のお知らせ🌿

今回の自然観察会では、少しその趣向を変えて薬効のある植物が、果たして当教会の道路や公園などに生えているのか、一緒に歩きながら見つけていきたいと思えます。見つければ、ラッキー！👉と思ふことにもなるでしょう。

さらに、見つかった薬草をお風呂の中に入れて、その香りや薬効にあやかたり、ちょっと変わったお茶の時間を味

薬草さがしの  
自然観察会  
日時 2018年9月16日(日)  
集合時間：午後1時30分  
(解散予定時間：午後3時00分)  
集合場所 赤塚ハブテスト教会 玄関前

わってみたり、乾燥させた草の葉を袋に入れて自然の香りを楽しめることがあるかもしれません。

期待と共に楽しみにしていきたいと思います。 ♻️責任者：岩田 浩司

2019年2月10日 .

◆◆自然観察会のお知らせ◆◆

★日時★2019年2月17日 13:30~15:00

★集合場所★赤塚バプテスト教会 玄関前

★テーマ★自然のものを使って自然を表してみよう！

テーマがむずかしいなと思う方には別のお楽しみも用意しています😊

どなたでも、どうぞご参加ください！🌿🐞

2019年3月15日 .

🔍🌿🌿「自然観察会」 “自然のものを使って自然を表わしてみよう”

2019年2月17日🌿🌿

今回の「自然観察会」は、大宮バイパスの上にある公園までも行かないぐらいのところ、材料集めをやって頂きましたので皆さんの満足いくような材料集めができなかったと思いましたが、このテーマに挑戦して下さった方々の作品を、終わった後で拝見しましたら、思わず見とれてしまうような大変美しい作品が何点も作り上げられていました。同行された星さんが、これは写真📷に撮って参加されなかった皆さんにも見て頂こうと記念に写真を撮ってくれました。

その写真は、私が懸念していた時期がまだ春になっていないこともあり、皆さんに無理かと思われたのですが、ご覧のように大変色とりどりの植物が芽生えていたことが幾つもの作品に生かされていることから示されて、ほっとしたと共に自然の素晴らしさに驚かされました。

参加して、このようなことを実際に試された方は、一つ一つの花や葉っぱに、神様のお心が、色彩や形の細部に行き届いているのに気付かされたことと思います。感謝！！岩田浩司🌿





👩👧👦参加された小泉美佐子👩さんからの感想も寄せられています♪👩👧👦

自然観察会に参加して

冬の長い眠りから目覚めた早春の草花。春を目前にした日曜の午後、私たちは野の植物を探しに出かけました。暗い土のなかから新たに芽吹き、生まれ出た葉っぱの赤ちゃん、お花の赤ちゃん。ようこそ。

小さな新しい生命は、春風が吹く前からもう顔を出す準備をしていたのですね！

神様の自然の采配の素晴らしさに改めて感謝!! 🌿🌿🌿

2019年6月13日 ·

🌿6月の自然観察会のご案内🌿

◆6月30日(日) 赤塚教会 午後 13:30 集合◆

最近、特に今年は天候などの状況の変動が激しく、日本本来の季節感が失われているような気がして大変残念です。

4,5月頃の若葉の季節から、一気に青葉の季節に移った気にさせられた思いがありました。若葉の頃の葉は、葉の厚さも薄く、日にかざしてみると太陽に透けて、葉の中に白い細かな筋が複雑に走っているのが見られます。

今回の自然観察会のテーマは、この葉の中に見える筋(すじ)の観察です。この白い細かな筋に見えるものは、人など動物で言えば、まさに血管のようなもので、植物にとっても大いに大切なものです。どんな植物がどのような感じになっているのでしょうか? 皆さんで調べてみましょう!

今回思っていることは、ちょっといかめしい感じですが、「音響生態学」をお話したいと思っています。実は、いかめしいお話ではないのです!! 岩田浩司



2019年6月28日 ·

6月30日(日) 赤塚バプテスト教会の集会のご案内

礼拝にどうぞおいでください。どなたでも参加いただけます。

午後1:30からは、自然観察会が行われます。地域のどなたでも、お気軽に参加ください。無料です。テーマは「植物の血管(葉脈)を調べてみよう」。講師は岩田浩司氏(都立、私立の高校で永年、生物学を教えてこられ引退された教師)です。

朝礼拝 11:00am~12:00pm

宣教題 「神に造られた者として生きる」

聖書箇所 コロサイの信徒への手紙 1章 9~23節

宣教者 石堂雅彦牧師

※礼拝は初めて、聖書も初めてという方、どうぞご安心を。プロジェクターに聖書の言葉が映し出されます。わからないことは、お気軽に受付に、またお隣の方にお尋ねください。

●旧約聖書の学び 9:00am~9:40am

※今日はエゼキエル書 4 章です。二人の壮年メンバーが担当し、わかりやすく解説してくれます。どなたでもお気軽においでください。

●教会学校 10:00am~10:50am

※各年齢別（幼児、小学生、中高生青年、壮年女性）のクラスがあります。小グループで聖書の言葉を学びます。各クラスには信徒リーダーがおります。どうぞ安心して参加ください！

●夕礼拝 4:00pm~5:00pm

※本日は女性会のメンバーによる聖書からの奨励があります。どなたでもおいでください。

★かつて聖書を読んだり、賛美歌を歌ったことのある方、どうぞおいでください。教会も聖書も初めてという方、歓迎いたします。どの集会にも参加いただけます。お気軽にどうぞ！

聖書をお持ちでない方は、教会2階の受付で、貸出用の聖書と讃美歌をお取りください。（下記ホームページをご参照ください。）

赤塚バプテスト教会 牧師 石堂雅彦

〒1750092 東京都板橋区赤塚 1-18-7

☎03-3930-3886 📠03-3938-3626

<http://akatsukakyokai.org>

2019年7月5日

🌿🌿 今回の自然観察会 6月30日(日)テーマは「“葉“の葉脈(血管)の観察」で植物にとっては重要なものをテーマとしました。🌿🌿

観察の始まる前には、「環境音響学」という、環境の中から聞こえてくる音が私たちの心にどのような影響をもっているのか、ということについてお話ししました。 岩田浩司



2019年9月19日

9月29日(日)自然観察会のお知らせ

👤 テーマ 「葉っぱのこと、まだまだ学ぶことができます」

13時半～ 赤塚教会集合

前回の自然観察会は6月でしたので、今月末の観察会はおよそ3か月程も経ったことになってしまいました。今回は、葉脈（植物の血管ともいうべきもの）の働きと、そのスケッチをいたしました。

葉っぱを光にすかしてよく見ると、葉の中には、中央から始まって、葉っぱの隅々まで細い線がたくさん見られます。それは一体何をやるものなのでしょうか？ 一見、人の血管の様に見えるその細かな線は、植物全体に栄養や水を送っていることを学びました。しかし、葉っぱのことはまだまだ多くの学ぶべきことがあるように思います。

このように考えると、たかが葉っぱといっても、まだまだあまり知られていないたくさんの事柄が次々に浮かんできます。

今回は久しぶりに野外観察の中で、いろいろと自然界の知りたいことを見つけながら歩いてみたら楽しいものになるかなと期待しています。どうぞみなさんご参加ください！

岩田浩司 写真：星兄撮影



2019年11月4日

自然観察会 2019年9月29日

前回参加された方はお分かりでしょうが、葉っぱの中の構造は大変緻密なものだったので驚かれたことと思います。

そこで、今回はいきなり大きく木（樹木）の図を大まかに描いて頂きました。皆さんは、ここでどんな図を描かれますか？ 参加された方々の図も、それぞれに描かれました。ところで急なこととはいえ、「葉」のない木を描くことがあるのでしょうか？ これは大変なことです。木を描く時、幹や枝を描いて葉を抜くことは普通では起こりません。

さて、この枝についている葉の形にはどのようなものがあるのでしょうか？ 同じ植物ですが、どんな植物でも同じ形をしていないことは、普通それぞれに異なることは、ほぼご存知だと思います。

一つ一つの葉の形をよく見てみましょう。多分、皆さんがご存知なのは、細長い形をしていて、周りに細かなギザギザがある葉です。しかし、どんな葉でもそのような葉ばかりではありません。全くギザギザのない葉もあります。前者を鋸歯葉（キョシヨウ）、後者を全縁葉（ゼンエンヨウ）といいます。

さらに細長い丸みのある葉だけでなく、ヤツデのように一枚の葉が幾つかに分かれている葉もあります。前者を不分裂葉、後者を分裂葉といってなかなか複雑ですが同じ葉の形も興味のあるものです。さらに一本の枝に付く葉の付き方にもいろいろありますが、それは次の機会にゆずりましょう。岩田 浩司 記 【写真 佐藤隆子姉👤】



2020年1月25日

🌿 1月19日（日）赤塚教会自然観察会 🌳

🏠 陽が差しているところは暑いくらいのぽかぽか陽気だったが、日影は真冬なのでさすがに寒い。

サツキは赤い色の葉になっているが夏に近づくと緑になるそうです。

バラの葉はまだ小さいがすでに芸術的な姿をしています。

木の枝の先端にある芽はこぶしです、名前通り、こぶしの形ですね。

大木の上を覗くとなんと土鳩が3羽くらい羽を膨らましてまるくなって眠っていました、わかりますか？ 気がつくと驚きますね。

教会に戻ってから皆で絵を描きました。小学生の時に戻ったような気がする自然観察会で、子供のような気持ちで自然への敬意を持ちました。

神はこんな細かい配慮で植物を創ったんだ、と童心の眼に戻って話し合いました。

堅苦しくはないので、すごく楽しかったです。

観察した絵をかいたり、植物で作品を作ったりするのは、普段の生活と違うので面白い！ そんな自然観察会でした。【写真📷・文🖋️：星兄】🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿

小さなことでも神様はとめていねいにつくられることが、この観察会を通してよくわかりになったこととおもいます。また次回ご参加ください。【岩田浩司👤】

